

シンポジウム

- 第1回スーパーSINETシンポジウム(平成13年8月31日:学術総合センターにおいて開催)
「スーパーSINETの構築と活用」を開催し、スーパーSINET構想及び研究代表者による各研究分野における活用事例の研究発表が行われました。
- 第2回スーパーSINETシンポジウム(平成15年3月19日:学術総合センターにおいて開催)
「スーパーSINETを用いた研究の現状」を開催し、スーパーSINETの現状報告、各研究部会からの研究報告や、関連研究の活用事例の発表が行われました。
- 第3回スーパーSINETシンポジウム(平成16年5月24日:学術総合センターにおいて開催)
「スーパーSINETを用いた研究の進展」を開催し、スーパーSINETを用いた研究成果が発表されました。なお、これらの研究成果は、「学術情報ネットワーク(スーパーSINET/SINET)成果報告集」として刊行されました。



スーパーSINET推進協議会

平成13年8月31日(第1回)、平成14年1月9日(第2回)、平成14年10月9日(第3回)、平成15年3月19日(第4回)、平成15年11月18日(第5回)の「スーパーSINET推進協議会」を学術総合センターにおいて開催しました。
第1回は公開形式でインターネットライブによる中継も行われ、推進協議会代表と研究部会の世話役の選任が行われました。第2回～5回は各研究部会及びITBLの活動報告や整備計画について説明が行われました。



スーパーSINET開通式

平成14年1月9日に学術総合センターにおいて「スーパーSINET開通式」を開催しました。テープカットののち、加納文部科学大臣政務官、末松国立情報学研究所長及び共同研究の相手方である坂田日本テレコム(株)最高顧問からの挨拶や、高エネルギー加速器研究機構とハイビジョン映像による遠隔通信により、菅原高エネルギー加速器研究機構長の挨拶等が行われました。



国立情報学研究所紹介

国立情報学研究所は、平成12年4月に学術情報センターを改組転換し発足した情報学の中核研究を担う研究所です。平成16年4月から大学共同利用機関法人情報・システム研究機構の一員として新たにスタートいたしました。国立情報学研究所では、コンピュータや情報通信という基盤研究に加えて、情報処理研究の基礎から応用、さらに社会・人文科学的側面に至る幅広い情報学を総合的に進めることを目指しております。
また、学術情報ネットワーク(スーパーSINET及びSINET)を学術情報基盤として構築・運用するとともに、学術情報の流通のための先端的な基盤の開発と整備を行うため、GeNii(NII学術コンテンツ・ポータル)による、Webcat等の目録所在情報サービス、NACSIS-Eの電子図書館サービス、NACSIS-IRの情報検索サービス、学協会の情報発信を支援する学協会情報発信サービス等の事業の展開を行っています。



大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
国立情報学研究所
National Institute of Informatics

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2丁目1番2号 学術総合センター内
TEL 03-4212-2000(代表)
国立情報学研究所について詳しくはホームページをご覧ください。
URL <http://www.nii.ac.jp/index-j.html>

問い合わせ先
国立情報学研究所
開発・事業部 ネットワーク課 計画係
TEL:03-4212-2255 FAX:03-4212-2270
E-mail:net6@sinet.ad.jp



光 ネットワーク
SUPER SINET
スーパー・サイネット

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構
国立情報学研究所
National Institute of Informatics



スーパーSINET

スーパーSINETは、先端的学術研究機関間の連携を強化して、日本の学術研究を飛躍的に発展・増進させることを目的とする超高速ネットワークです。平成13年3月にIT戦略本部が発表した「e-Japan重点計画」に採り上げられており、10ギガビットの光通信技術を用いる世界最高速の研究用のインターネットで、文部科学省国立情報学研究所が、平成14年1月4日から運用しています。

先端的な研究分野を対象に

当面、「高エネルギー・核融合科学」「宇宙・天文学」「遺伝子情報解析(バイオインフォマティクス)」「スーパーコンピュータ等を連動する分散コンピューティング(GRID)」「ナノテクノロジー」の5分野を対象に、大学等研究機関を接続し、これらの研究の情報基盤として用いられています。通信速度は、インターネット幹線(バックボーン)として研究機関間を10ギガビットで接続している他、研究機関をまたがって研究機関内の先端的な研究施設等の間を1ギガビットで直結しています。また、ITBL(IT-Based Laboratory)計画についてもスーパーSINETにより基盤整備しています。今後は、スーパーSINETを用いた新たな研究プロジェクト提案等を受け、更なる先端的学術研究の促進を図っていく計画です。

高速光インターネットの開発

スーパーSINETは国立情報学研究所と日本テレコム株式会社との共同研究により光インターネットの実現を目指しており、大学等の研究拠点を、“光波長多重通信(WDM)”と“光クロスコネクタ(OXC)”を用いた光伝送システムにより接続しています。光インターネットは次世代インターネットを実現するものとして、世界中で開発が試みられている技術で、研究機関間を、電気信号に変換することなく全て光技術で接続するネットワークは世界最初の試みです。これにより超高速かつ高品質な通信が可能になるばかりでなく、接続形態を瞬時に変更できることから、大学の研究室を個別に先端的な研究機関に直結し研究に参加することが可能となります。この新たなネットワークは、日本の学術研究の発展を大きく促すものとして注目されています。

スーパーSINET推進協議会

スーパーSINETを用いた研究を推進するにあたり、目標の設定、計画の策定ならびに成果の交流の場とするために「スーパーSINET推進協議会」を設置しています。現在のところ、研究テーマ毎に、「高エネルギー・核融合科学研究」「宇宙・天文学研究」「遺伝子情報解析研究」「GRID研究」「ナノテクノロジー研究」の5つの部会を構成しています。

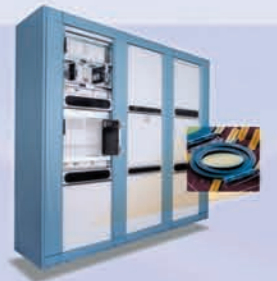
光インターネット (photonic Internet)

光クロスコネクタをルータと連動させて運用するインターネットであり、次世代インターネット方式です。中継ルータが必要と判断する中継区間に、光クロスコネクタを使用して超高速パス(回線)を設定することで、必要とする超高速性やレスポンスを得ることができます。このような動的制御を行う機能をスーパーSINETでは運用します。

光クロスコネクタ(OXC=Optical Cross Connect)

クロスコネクタは、中継回線相互の接続を切り替えるものです。現在電子的なクロスコネクタが使用されていますが、高速化や伝送フォーマットの変更に伴い装置を改修する必要があります。これに対し光クロスコネクタは、光信号のまま切り替えることを可能とするため、速度やフォーマットの変更による改修を必要としません。

大規模な光通信ネットワークを経済的かつ柔軟に構成する必須手段であり、国内外で開発が進められています。スーパーSINETでは、世界で初めて光クロスコネクタを運用します。



光波長多重通信(WDM=Wavelength Division Multiplex)

次世代インターネットのバックボーン回線への応用が期待されている、広帯域の光ネットワーク技術です。「波長分割多重」と訳されています。1本の光ファイバに異なる波長の光を通してチャンネルを多重化し、より大容量のデータを双方向で伝送させる技術です。スーパーSINETのWDMは、1波長あたり1.0/2.5/10ギガビットの伝送速度を持つ波長を80波まで多重化することができます。また、波長数を増やしたり、チャンネル間隔を狭めることでさらに大容量のデータ伝送を実現するDWDM(DenseWDM:高密度WDM)技術も研究されています。実現すれば、ギガビット(Gbps)の約1000倍に相当するテラビット(Tbps)の超大容量のデータ伝送が可能になります。

IT戦略本部

平成12年の第150回国会において「高度情報通信ネットワーク社会形成基本法」(IT基本法)が制定され、平成13年1月に施行されたのをうけ、内閣に高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部(IT戦略本部)が設置されました。

IT立国の核となる高度情報通信ネットワーク社会の形成に関する施策を迅速かつ重点的に推進していくことが目的です。

e-Japan重点計画

平成13年1月22日に開催された第1回IT戦略本部において、「IT基本戦略」に基づくIT国家戦略として、「e-Japan戦略」が決定されました。

e-Japan重点計画は、「e-Japan戦略」を具体化し、高度情報通信ネットワーク社会の形成のために、政府が迅速かつ重点的に実施すべき施策の全容を明らかにしたものです。IT戦略本部を中心とした内閣の元に重点計画を確実に実施し、その達成状況を継続的に調査すると共に、必要に応じて新たな施策を重点計画に加えることにより、世界最先端のIT社会への転換を迅速に推進することが目的です。

